



北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク誌

ACROSS

2022年12月1日発行

No. 3

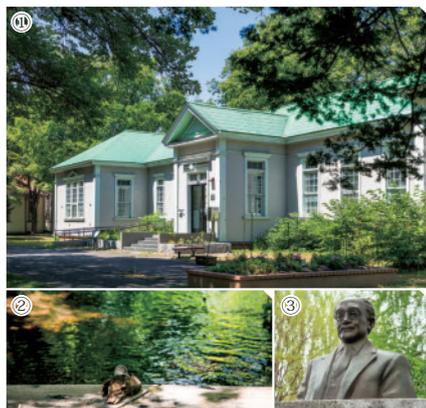


北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク誌

ACROSS

〈目次〉

1. 「ACROSS 3号」に寄せて
2. 同窓生の近況
3. 教育プログラム—学部教育コース
4. 教育プログラム—大学院教育コース
5. 新渡戸カレッジの現況
6. フェロー・メンター・教員の紹介
7. 教員からのメッセージ
新渡戸カレッジ同窓生の皆さんへ
ウェブサイト・フェイスブック
アドレス紹介



①旧昆虫学及養蚕学教室
②大野池のほとり
③花木園の新渡戸稲造像

「ACROSS 3号」に寄せて



北海道大学新渡戸カレッジ教頭

小田 研

新型コロナウイルス感染症の終息は未だ見えない状況ですが、新渡戸カレッジ同窓ネットワークの皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。新渡戸カレッジは、昨年度と一昨年度にはオンラインあるいはハイブリッドを中心とする授業を実施してきましたが、今年度の授業は感染対策を講じての対面が基本、場合によってハイブリッドという形態に変わりました。大学全体としても授業は対面に戻り、留学生の渡日も大きく緩和され、学生がキャンパスに戻ってきたことを実感しています。入学式・修了式などの行事は対面主体にオンラインを併用して開催し、合宿・フィールドワークも実施しています。また、海外留学に関しては、長期と短期ともに渡航する新渡戸カレッジ学生数が徐々に回復しています。このように、新渡戸カレッジの活動はコロナ禍が続く状況においても平常に戻りつつありますので、ご安心ください。

さて、2019年4月、学部学生を対象とした新渡戸カレッジと大学院学生を対象とした新渡戸スクールが統合となり、新生の新渡戸カレッジは、基礎プログラム（学部教育コース及び大学院教育コース）とオナーズプログラム（学部教育コース及び大学院教育コース）により編成されることになりました。この統合により、学部教育と大学院教育をつなぐ橋が架けられ、新渡戸カレッジ全体として学士課程から修士課程あるいは専門職学位課程に至る一貫教育の実施が可能となりました。両コースの融合は、徐々にですが、進展しつつあります。例えば、大学院教育コース学生による学部教育コース授業科目の一部（セルフキャリア発展ゼミなど）の履修が可能となりました。大学院生にとっては幅広い教養の獲得につながるのと同時に、学部生に対しては授業の高度化をもたらすなど、相乗効果が期待されます。また、オナーズプログラム学部教育コースにおける早期履修制度の導入により、同コースの4年生が基礎プログラム大学院教育コースの必修2科目を履修、単位修得することで、大学院進学後に基礎プログラムを飛び越してオナーズプログラムに入校できるようになりました。大学院教育コースでは、学部時代に身につけたチームワーク力などの能力や海外留学の経験を発揮し、「国際社会の縮図」と呼んでいる教育環境の下での英語によるアクティブラーニングに取り組み、専門性をグローバル社会の課題発見・解決に活かすために必要な力を磨き、学部から継続してグローバルリーダーとしての素養を積むこととなります。多くの新渡戸カレッジ学生に一貫教育の機会を享受してもらうためには、2つの教育課程をコヒーレントにつなぐ橋（私の中では新渡戸ブリッジと呼んでいる（笑））がより一層有効に機能する仕組みが必要だと思います。新渡戸カレッジはグローバルリーダーを育成する先進的教育プログラムとして成長し続けていきますので、引き続き皆様のご支援とご協力のほど、宜しくお願いいたします。

新渡戸カレッジでの 出会いは一生もの

山下 渚

株式会社ケー・エー・シー

2014年度 新渡戸カレッジ 第2期生



2020年に獣医学部を卒業した新渡戸カレッジ2期生の山下渚と申します。

新渡戸カレッジでは様々な活動に参加しましたが、その一つにインターンシップがありました。インターン先では、現地の研究者が、違う分野の視点が欲しいと言って、学部生の私に意見を求めてきました。学部と異なり、一人ひとり異なる専門分野を持つ人々が集まって取り組む環境を経験することで、各自がスペシャリストとして高い専門性を持ちながら、互いの意見を尊重し、補い合うことの重要性を学びました。

現在は、受託試験業務を行う企業で病理組織標本作製の専門家として研究者を支えており、他分野の方とのコミュニケーションの大切さを改めて実感しています。これからも専門性を磨き、幅広く、深く、学び続けていきたいと考えています。

やりたいことを諦めず貪欲に全てをつかみにいく、そんな仲間と囲まれて過ごす新渡戸カレッジでの日々は刺激に満ち、そこから多くの貴重な経験を得ることができました。彼らとは卒業した今でも連絡を取り合っていて、それぞれのフィールドで奮闘するお互いの近況を報告し合うたび、私ももっと頑張ろうと前向きな気持ちになります。新渡戸カレッジで出会った仲間とのつながりを、これからもずっと大切にしていきたいと思っています。

現場は宝の山： 国際協力の最前線にて

松田直輝

独立行政法人国際協力機構

2016年度 新渡戸カレッジ 第4期生



私は、大学4年の時にベルギーに半年留学し、帰国後の就活を経て、2021年4月に国際協力機構（JICA）に就職しました。最初の配属先はJICAの留学生事業を扱う部署。入構式で辞令を受け取ったとき、何の仕事をするのか全く想像できませんでした。徐々に、留学生事業が日本人を海外に送り出すのではなく、開発途上国の官僚や民間人の中から、日本の大学で修士・博士を修め、帰国後、知日派・親日派として活躍する人材を選抜して育てる事業であることを理解するようになりました。自身の留学では、ベルギーの食文化・人・国の歴史に半年間触れ続け、何にも代えがたい経験を得ることができ、帰国の時までベルギーが大好きになっていました。留学生を受け入れる立場となった今、日本の魅力をどう見せようかと日々奮闘しています。

実は、2022年8月現在、私はタンザニアにいます。JICAには、新人が開発途上国に2~3か月赴任する「海外OJT」という研修があり、私は専門の農業を生かしたい、未踏のアフリカをこの目で確かめたいという理由でタンザニアを選びました。留学から戻って以来2年半ぶりの海外ですが、現場で得られる情報量が圧倒的に異なることを実感しています。

日本国内にも多種多様な現場があります。北海道大学も、JICAの札幌センターや帯広センターとともに国際協力の最前線に位置づけられています。コロナ禍で海外の現場を知る機会は限られるかもしれませんが、常に現場に赴く大切さを忘れず、いろいろなことに挑戦して下さい！

多様性を尊重し、 成果を創出する

山崎莉佳

アステラス製薬株式会社
開発研究部門
モダリティ研究所
バイオロジクス研究室

2016年度 新渡戸スクール 第2期生



蛋白質科学を専門として博士号を取得し、現在は製薬会社で研究員として、がんの創薬研究に携わっています。具体的には、薬のモダリティを研究する部門にて、自分で抗体分子をデザインし、作製・評価する仕事です。自分の手で作った分子をクスリにし、患者さんのもとに届けることが目標です。新渡戸スクールでは、専門の異なる学生が集まって研究発表を行い、互いにフィードバックしました。会社では、チームで創薬を進めるため、薬理、安全性、物性など多様な専門家と協働しますので、新渡戸スクールで得た気づきが仕事を進めるうえで活かしています。研究と新渡戸スクールとの両立が大変だった時期もありましたが、挑戦してよかったです。一方で、社会人になって新たに直面した困難もあります。新渡戸スクールの仲間は、専門性等の多様性がありながらも、みな同じく修士・博士課程の学生という共通点がありました。しかし、会社に在籍している人々は、専門だけでなく、年齢・家族の状況・仕事に対する考え方など様々な面で異なっています。自分とは違う背景を持つ人々と良い成果を創出していくためには、創造力を働かせること・お互いを尊重することが大事だと実感し、様々なアプローチを日々試行錯誤しています。

難題に向き合い、 楽しむ

岡田慎平

アクセントア株式会社
ビジネス
コンサルティング本部

2017年度 新渡戸スクール 第3期生



北海道大学大学院保健科学院を卒業後、コンサルティング企業にてテクノロジーを軸にした企業変革の仕事をしています。企業を取り巻く環境の変化を踏まえ、お客様企業の価値を高めていくことに日々奮闘しています。

コンサルティング企業での仕事はビジネスの専門家や、テクノロジーの専門家などそれぞれ異なるバックグラウンドを持つメンバーで構成されるチームで取り組みます。新渡戸スクールでは、専攻が異なる学生が1つのチームとなり、課題解決をするという経験をしました。各メンバーの強みを活かし、弱みを補い合うという、チームとして最大限の成果を出すための考え方や振舞い方は現在の仕事に活きていると感じています。

チームメンバーと共に難題に向き合い、議論を重ね、知恵を絞り、お客様に価値提供することは大変ではありますが、非常に充実しています。昨冬に新渡戸カレッジに参加している学生の方々とキャリアについてお話する機会をいただきました。卒業後に新渡戸カレッジと関わられることを嬉しく思いますし、優秀且つ熱意のある学生から刺激を受け、身の引き締まる思いでした。これからも難題に向き合うことを恐れず、楽しみながらキャリアを築いていきたいと思っています。

◆同窓生の近況◆



■グローバル基礎科目

基礎プログラムの必修科目で、仮入校の1・2年次生が履修します。春ターム「国際理解と海外留学」では国際経験の豊富な講師陣によるオムニバス講義、夏ターム「リーダーシップとチームワーク」ではグループワーク中心の授業を行っています。2021年度はオンラインと対面によるハイフレックス型を導入し、それぞれの利点を活かしてより柔軟な形で実施することができました。また、チューターの導入が進み、履修生をサポートするしくみが一層充実したように思います。今後はこれらのしくみをさらに発展させていきたいと考えています。



■フェローゼミ

基礎プログラム生の必修科目で、担当のフェローのもと、少人数の演習形式で行われる課題解決型授業です。世界が抱える諸問題をテーマとして、持続可能な社会に向けてチームで検討することを通して、リーダーシップやチームワークを発揮する力を磨くことを目的としています。2021年度は8つのテーマを設け、成果発表の場である「公開シンポジウム成果報告会」を含む全ての活動を対面で行うことができました。今後も関係者や上級生チューターの支援を受けて、より一層充実した授業になるよう改善をはかっていきます。



■セルフキャリア発展ゼミ

自らの未来を構築する力を養う目的で行われる、フェローと学生同士の集団的伴走支援を中核としたキャリアセミナーです。2021年度も合宿は叶わなかったものの、対面でのグループワークを実施することができました。前年度の全面オンラインでの実施に比べて、対面ではより活発な議論ができ、学生が社会の状況を知り、自らの人生設計を考える良いきっかけになりました。また、カレッジ生とフェローとの間の親睦がはかれ、日常と異なる空間での自己洞察が行われる上で、合宿はやはり必要不可欠であることを再確認できました。来年度はぜひ合宿を復活させたいと考えています。



■対話プログラム

カレッジ生がフェローとの1対1の対話を通してリーダーシップの資質を磨くプログラムです。今年度もオンライン面談を中心に実施し、それが、学生にとって時間的・心理的に参加しやすく、参加の可能性を広げる上で有効なツールとなることを再確認しました。また、オンライン面談の場合は特に、実施後の振り返りが重要であることを確かめることができました。今後、対面が可能になった場合でも引き続き、オンラインのツールを有益な選択肢の一つとして活用していきたいと考えています。



■海外留学全般について

「海外留学」はカレッジ生の国際性の涵養を目的とした必修科目であり、交換留学、短期留学スペシャルプログラム（短期SP）、国際インターンシップ（国際IP）、学部専門レベル短期留学がその対象となります。今年度は、交換留学が再開できており、渡航する学生が増えました。一方で、従来のように長期の留学が困難な学生に向け、短期SP、国際IPをはじめ、オンラインでの短期留学を実施することにより、カレッジ生に「海外留学」の単位取得の機会を提示することができました。

■短期留学スペシャルプログラム（短期SP）について

2021年度の短期SPを、前年度のオンラインでの実施の経験を踏まえ、内容を拡充した上で、北米4協定校（アラスカ大、ワシントン大、オレゴン州立大、ブリティッシュコロンビア大）教員等の協力を得て実施しました。具体的には、①オンデマンド講義、②留学生TAを含むグループ・ディスカッション、③講師との質疑を1セットとする授業を2週間（15セット）行いました。現地のフィールドワークや異文化体験等はできませんでしたが、学生は協定校で授業を受けることについてイメージができ、留学へのモチベーションを高めることができました。



教育プログラム紹介——大学院教育コース

■オンラインとハイブリッド(対面とオンラインの同時実施)でのアクティブラーニング

新型コロナウイルスの影響により2021年度前期はオンラインで授業、後期からは一部の授業をハイブリッドで行いました。ZoomのBreakout RoomやオンラインソフトMiroによるホワイトボード、新渡戸ポートフォリオのチームワーク機能などを利用したチームディスカッションの実施、各チームに配置した外国人TAによる異なる視点からの助言の提供、英語でのディスカッションの活性化など工夫をしました。

■大学院基礎科目Ⅰ・Ⅱ

—チーム学習の基礎・実践

大学院基礎科目Ⅰでは、創造的思考、批判的思考、リーダーシップや専門職倫理などを題材として、チームワーク能力を伸ばす授業を重点的に行いました。大学院基礎科目Ⅱでは、チームで効果的・効率的に協働するためにプロジェクトマネジメントの基礎を学び、2つのプロジェクトを行いました。一つは、近年札幌市で問題となっている居住域へのヒグマの頻繁な出没に対して、オリジナリティのある解決策を提示する内容としました。受講生にとって身近な問題であり、自然と人間との共存というSDGsの課題にも該当することから関心が高い課題でした。もう一つは北大を難民キャンプとして開放するプロジェクトです。難民問題は分野横断的かつ深刻な社会問題であるため、個々の学生の専門知識だけでなく、創造的・批判的思考が問われました。メンターより予算見積りなどの現実的な側面も考えるべきなどの指摘を受け、プロジェクトにリアリティを持たせることができました。



■大学院発展科目Ⅰ・Ⅱ

—課題解決・問題発見

大学院発展科目Ⅰでは、テーマの大枠をSDGsと定め、“Food, Water, Environment”として人々が直面する食品・水・環境をめぐる課題の解決策を考えました。実社会での取り組みについて学び、学生にさらに視野を広げてもらうことを目的として、メンターの石川憲一氏(スリーエムジャパン株式会社)協力のもと同社社員2名を外部講演者として派遣していただきました。食の安心・安全を担保するための活動の紹介、さらに学生が行うディスカッションや発表に対してビジネスの視点からアドバイスをいただきました。大学院発展科目Ⅱでは、“International City Sapporo's Activities and Problems”(夏ターム)、“Diversity in Society – As one can grow from difference”(冬ターム)から着想されるプロジェクトを実施しました。フィールドワークでは、対面、電話、Zoom、メール等によるインタビュー調査で得た一次データを分析し、解決すべき真の問題を探索しました。



■メンターフォーラム

「キャリアパスを考える」と題して、6月19日と12月18日にメンターによる講演と交流会をオンラインで実施しました。フォーラムを通じて学生は、大学での研究活動や今後の就職活動への取り組み姿勢、将来のキャリアデザインについて貴重な示唆を得ることができました。

The 1st Mentor Forum 2021
Think Your Career Path
キャリアパスを考える
Embrace Your Expertise, Transcend Its Limits
専門性を活かせ、専門性を越えろ

Mentor Lectures メンター講演会
2021. 6. 19 (Sat) 13:00 - 15:10

Global Leaders from Hokkaido

SAEKI Yuriko Global Co. Ltd. Niobe School's Managerial Class 経営者クラス1期生	NAKAHARA Taku Shinsei Therapeutics, Inc. Academic 研究・開発 VC-Entrepreneur 投資家・起業家
NAKANO Izumi IDENTSU CROSS BRAIN Inc. Advertising Industry 広告業界	Abhijeet Ravankar Rajani Institute of Technology Business 企業 Academic 研究・教育
NAKASHIMA Tetsu Chiba-Rock Ventures Business 企業 VC 投資家	YAMASHITA Naoki Ministry of Finance Business 企業 Academic 研究・教育
FLUJI Kodai Santen Food Co., Ltd. Business 企業 Entrepreneur 起業家	KOSHI Naomi Mura & Partners Mayor 市長 Lawyer 弁護士

The 2nd Mentor Forum 2021
Think Your Career Path
キャリアパスを考える
Embrace Your Expertise, Transcend Its Limits
専門性を活かせ、専門性を越えろ

Mentor Lectures メンター講演会
2021. 12. 18 (Sat) 13:00 - 15:20

KURODA Taruho L2D Pharma Co., Ltd. Research 研究 Business 企業 Side business 副業	NAKAHARA Taku 3M Japan Limited Medical Industry 医療業界 SaaS, SaaS 北支社 VC-Entrepreneur 投資家・起業家
ISHIKAWA Kenichi Medical Industry 医療業界 SaaS, SaaS 北支社	MAEDA Miku 3rd graduating class Niobe School Management and Human Sciences 経営学・人間科学
NAGAHORI Noriko Shinsei Therapeutics, Inc. Academic 研究・開発 VC-Entrepreneur 投資家・起業家	WADA Yoshiaki Ministry of Representative Business 企業 Politician 議員
OFUSU-TWUM Eric Hokkaido UAC Chemical engineering 化学工学 Regenerative Medicine 再生医療	

■プロジェクト実行科目

プロジェクト計画書の作成とプレゼンテーションの技法を学ぶ授業を実施しました。学生は、自身のプロジェクトの詳細を言語化し、プロジェクトのビジョンを明確に伝える力を高めることができました。さらに、異なる分野の研究の理解に向けて、聞く能力に磨きをかけたことにより、自身の研究を広く多方面から見る力を付けることができました。

■大学院特別演習

—Hult Prizeチャレンジ

企業課題解決演習 (DEMOLA)

Hult Prizeチャレンジでは、新渡戸カレッジ大学院教育コース修了生が参加するチーム「Yummy Choice」が学内大会において優勝しました。使用後に食べることができる箸や食器を提案し、木の伐採の削減を目指しています。DEMOLAでは、学生と企業人でチームを構成し、企業が抱えるビジネスの課題に対する解決策の立案をして参加企業にプレゼンしました。企業が解決策を受け入れ、ライセンス契約にまで至るケースもありました。

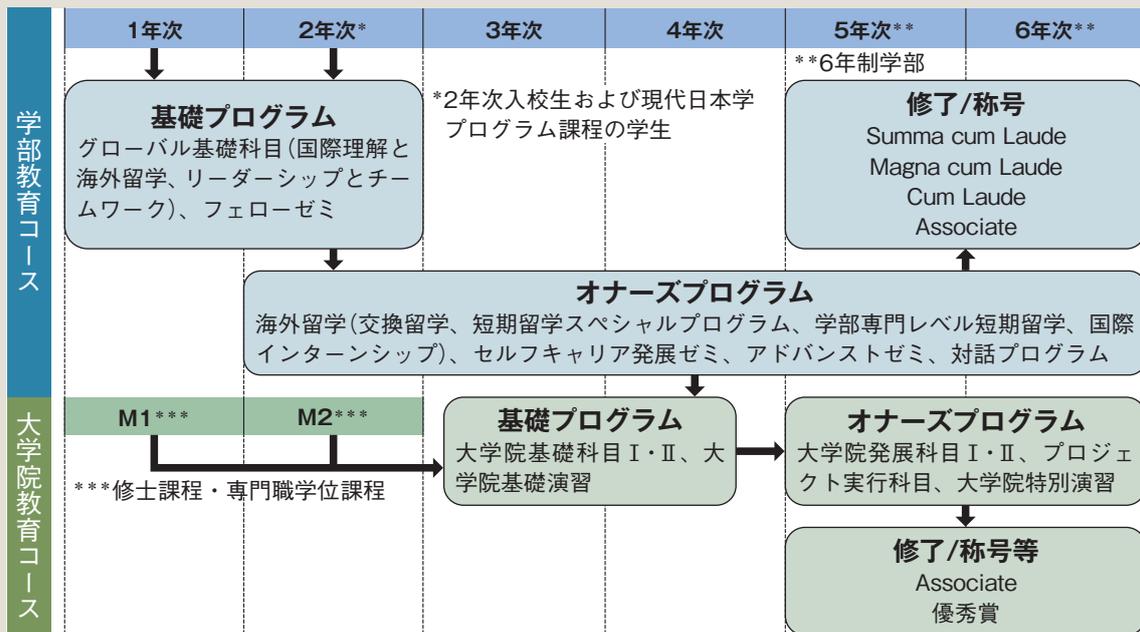


©Hult Prize
@北海道大学



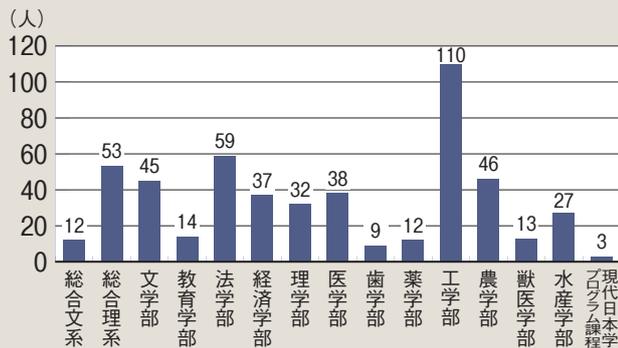
©DEMOLA HOKKAIDO

新渡戸カレッジ入校から修了までの流れ



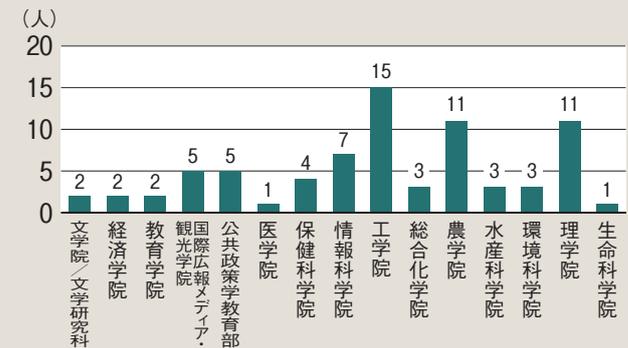
学部教育コース

●2021年度学部別在籍者数 (合計510名)



大学院教育コース

●2021年度学院別在籍者数 (合計75名)



●入校者数と修了者数



●入校者数と修了者数



●学部教育コース修了者の進路 (2021年度)

就職(一般企業)	16名
就職(官公庁)	1名
進学(本学大学院)	17名
進学(本学以外の大学院)	8名 (国内3名、海外5名)

●大学院教育コース修了者の進路 (2021年度)

本学大学院在学中	62名
就職(一般企業)	3名
進学(本学大学院博士後期課程)	1名
未定	3名

フェロー・メンター・教員の紹介

マイノリティ体験のススメ



石川めぐみ

フェロー

CJコミュニケーション

私は新卒でNHKに入局し、11年間ディレクター職を勤めて退職した後、中国北京で7年余り海外生活を送りました。ちょうど2008年北京五輪をはさんだ時期で、経済成長に伴い激変する社会を観察するのは非常に面白かったのですが、それとともに「マイノリティ」の立場を身を以て経験したことが自分の幅を広げてくれたと感じています。

異国で外国人として暮らすというのは、なかなか骨が折れるものです。現地の人には当たり前習慣や社会のしくみがよく分からなかったり、そもそも法規上の扱いが異なっていたり。初めての外国での就職、起業、生活の中の諸々の手続きを巡って途方に暮れることも少なくありませんでした。

しかしそんな「社会の異分子」としての生活を、学生の皆さんにはあえて若いうちにやってみて頂きたいのです。自分がどんなことに苦労し、どんなヘルプが有り難かったか。あるいは自分にどんなスキルが足りないと感じたか。その経験が、後に本格的に世界に打って出る時、あるいは異なる文化を持つ仲間を迎え、チームをまとめていく立場になった時にきつと役に立つことでしょう。

異文化と交わった時にいかに適応し共生の方法を見いだすかは、これから世界で活躍するリーダーにとって大切なスキルであると考えます。

私が新渡戸カレッジで語り続ける理由



黒田垂歩

メンター

レオファーマ株式会社

学生時代、自分がいかに無知だったかを感じる事が多くあります。どんな職業があるのかを知らなかった。社会の仕組みや時流を知らなかった。お金の事を全く知らなかった。今ハツとした学生さんも多いのでは？ 実社会という大海原に飛び込む前に、少しでも準備体操をして欲しい。そんな思いから私は、新渡戸カレッジのメンターとして学生さんに体験談を伝えています。

大学卒業を前にして、私は先々のキャリアをどうするかとても迷いました。今なら、そんな大学生の頃の自分に伝えたいアドバイスが沢山あります。「ただ迷うのは時間の無駄、判断に必要な情報をできるだけ多く集めた方がいいよ。情報が手近になければ、いろんな先輩達に直接聞いてみたいらしい。意外と親切に教えてくれるものだよ。」新渡戸カレッジには、頼れる先輩が沢山います。

同時に、大学生の自分には「心配しなくても大丈夫」と言って安心させてあげたいです。受験・就職活動といった「本当に意味があるのか？」と思える試練も、必ず血となり肉となります。しかもそれが強みなんだと分かるのが、20~30年後だったりもします。無駄に思える努力も、がんばって打ち込んだ時間は決して裏切らないものです。

私が新渡戸カレッジで皆さんに語り続ける理由。それは、現役学生の皆さんに、“悩める若者”だったかつての自分自身の姿を重ね合わせているから。少しでも皆さんが実社会で活躍する手助けをできるなら、私の本望です。

特任教員



内田治子 (Ph.D.)

特任准教授
教育心理学

繁富(栗林)香織 (Ph.D.)

特任准教授
マイクロ・ナノ工学、折紙工学

島田和久 (Ph.D.)

特任准教授
政治学

畑中貴美 (M)

特任講師
欧州研究

肖 蘭 (Ph.D.)

特任講師
教育学

シュルーター智子 (Ph.D.)

特任助教
宗教学

王 倩然 (M)

特任助教
教育学(社会教育・生涯学習学)

フェロー&メンター

フェロー

石川めぐみ

CJコミュニケーション 代表

石川裕一

(株)ぶらう 代表取締役社長
ジョンソンコントロールズ(株)
取締役

伊藤 慎

アルジェニクスジャパン(株) 神
経疾患領域マーケティング部門
アソシエイトディレクター

井上修平

元双日執行役員 顧問
元シンフォニア・テクノロジー
取締役

上田英樹

日本情報通信(株) 取締役
執行役員 エンタープライズ第一
事業本部長

大塚榮子

北海道大学名誉教授

大友俊彦

中外製薬(株) オンコロジー
LCM 部長

萱野 聡

(株)サクセスボード 代表取締役
社長

工藤文肅

双日(株) 北海道支店 支店長

佐々木亮子

(株)アークス 取締役

志清聡子

中外製薬(株) 上席執行役員
デジタルトランスフォーメーション
ユニット長

柴田哲史

佐藤工業(株) 札幌支店 技術
部長

浜江隆雄

元三井金属鉱業(株) 執行役員

島田元生

(株)ビスキャス 非常勤顧問

多田幸雄

(株)双日総合研究所 相談役

玉城英彦

北海道大学名誉教授

戸田守道

戸田建設(株) 執行役員 副社長

萩野 泉

(株)電通クロスブレイン データ
ソリューション 統括部長

日野峰子

会議通訳者

廣重勝彦

(一社)日本社債調査センター
代表理事

藤田信良

(一社)セレッソ大阪スポーツクラブ
理事
(株)セレッソ大阪 取締役相談役

松尾 望

(一財)知的財産研究教育財団

知的財産研究所 上席研究員

三村直己

(株)ロジック・リサーチ シニアコ
ンサルタント

村山和佳

(株)スコージャ 技術部課長

森 順子

(株)ハッピーアロー 代表取締役

メンター

石川憲一

スリーエムジャパン(株) 取締役
常務執行役員

Eric Ofosu-Twum

(株)日立製作所 研究員

黒田垂歩

レオファーマ(株) R & D Asia-
Pacific Hub シニアディレクター

佐伯百合子

(株)資生堂 研究員

中島 徹

15th Rock Ventures Founder &
General Partner
Spirete(株) 代表取締役

中原 拓

メタジェンセラピューティクス(株)
代表取締役社長

長堀紀子

北海道大学ダイバーシティ・イ
ンクルージョン推進本部 特任
教授
遠友ファーマ(株) 代表取締役

萩野 泉

(株)電通クロスブレイン データ
ソリューション 統括部長

藤井幸大

サンマルコ食品(株) 専務取締役

前田美紅

株式会社エトリホールディングス
人材教育部エトリ大学事務局
グローバル教育チーム
グローバル教育担当

山下直樹

財務省 主計局主査

Abhijeet Ravankar

北見工業大学 准教授

和田義明

衆議院議員

学部教育コース

ポートランド州立大学との
ジョイントイベントを開催して

Michelle La Fay

ミシェル・ラフェイ

文学研究院 教授



In February and March for four sessions, Nitobe College and Portland State University students took part in a joint event.

Nitobe College invited students from both universities to participate in the event and talk about how our countries are seen from the outside. I created an outline to guide the students with some questions and exercises so that starting the discussion would be easier for the students.

Each session started with about 20 minutes discussion the information students through the small exercises. Then the students were given about an hour to discuss the topic among themselves. I then came back into the discussion at the end to hear their opinions and short summaries.

The ten participants were very positive about the event and stated they would have been happy to have had a few more sessions. Participants liked the platform of first having structured discussion with the teacher and then more free and frank talks among the students. Students said they would like to participate in future events. They suggested other topics such as pop culture, politics, mental health, or movies. Nitobe College is hoping to host similar events in the future with other universities to promote student interaction.

2021年度末、新渡戸カレッジ主催で、カレッジ生とポートランド州立大学（PSU）の学生が交流する全4回のイベントを実施しました。イベントには新渡戸カレッジの招待した両大学の学生が参加し、互いの国が外からどのように見えるかについて話し合いました。学生が議論しやすいよう、導入となるいくつかの質問と課題を私の方で提示しました。

セッションでは最初の約20分間、課題を通して情報を集めるためのディスカッションを行いました。続いて、学生同士がZoomのブレイクアウトルームで1時間ほど自由に話し合った後、最後に10分間ほど、議論の中で出てきた意見を紹介し、まとめを行う時間を設けました。

10名の参加者は、このイベントに対して非常に積極的で、あとさらに数回セッションがあればよかったと述べています。参加者がまず教員と、テーマを絞って議論をし、その後、学生同士でより自由に率直な話をするというプラットフォームが良かったようです。また、今後のイベントにも参加したいという声もありました。ポップカルチャー、政治、メンタルヘルス、映画など、他のトピックも提案されました。新渡戸カレッジでは、今後も他大学との共催で同様のイベントを開催し、学生の交流を図りたいと考えています。

教員からのメッセージ

大学院教育コース

2021年度 担当教員からのメッセージ

ピーター シェーン

北海道大学病院 准教授
(春・秋ターム)



「課題解決」担当

課題解決を2年間担当させて頂いて、分野横断的なチームワーク、机上の空論ではなく実装性の検証、SDGsの実現に照らし合わせた実学、いずれも学生のうちに実社会に目を向ける最良の機会を提供できたと思います。全ての始まりは偉大なアイデアとチームワークだ！

池 炫周 直美

大学院公共政策学連携研究部 准教授 (春・秋ターム)



「課題解決」担当

我々が直面している深刻な課題発見や解決のために、議論を重ね、限られた時間の中で現地調査をし、真実に課題に取り組んできたこの時間や努力はあなたたちを決して裏切りません。今後も問題から目を背けず、共に時間を共有した「盟友」として、我々が直面する課題に真摯に向き合って行こう！

伊藤秀臣

大学院理学研究院 准教授
(夏ターム)



「問題発見」担当

他人の真似をするのではなく、自分の個性を磨くために、今何をすべきなのか常に意識しながら、ワンランク上の自分を目指してください。この言葉は学生へのメッセージであると共に自分に向けての言葉でもあります。この言葉を胸に日々精進してまいります。

デン ペンブル

大学院工学研究院 助教
(親：School of Civil Engineering, Central South University, China, Professor)
(夏ターム)



「チーム学習の実践」担当

2020年から2年間新渡戸カレッジで講義を担当し、素晴らしい経験をしました。社会では、ストレス、不確実性や挑戦が増えると思います。これまでの学びを通し、それらを克服し成功を収めることができると信じています。今後の成功とご多幸をお祈り申し上げます。

呉 成真

大学院農学研究院 助教
(夏ターム)



「チーム学習の実践」担当

多様な専攻の人たちと普段は考えていなかった課題について話すことができました。新渡戸カレッジは、自分の視野をさらに広げられる良い機会だったと思います。修士生の皆様が再び新渡戸カレッジに戻ってメンターとして活躍する日を期待しております。

コーカー ケイトリン クリスティン

大学院文学研究院 准教授
(冬ターム)



「問題発見」担当

大学は共に学び、共に知恵を育むことによって、皆さんにとってより充実した生き方のできる社会を想像して創造できるようにすることが目標だと思います。Problem Findingを通して、私たちが当たり前とされてきたProblemへの捉え方の根底にある固定観念を見つめ直すことで、世界が新たな形で目の前に現れてくることを目指します。

三浦篤志

大学院理学研究院 准教授
(冬ターム)



「チーム学習の実践」担当

数年振りの担当でした。ハイブリッドでの実施とのことで、“以前の様な活発な議論・プロジェクト遂行は可能だろうか…”と講義開始前は心配していましたが全くの杞憂でした。どのような状況下でも貪欲に学びを深める若さは素晴らしい！2022年も楽しみです。

新渡戸カレッジ同窓生の皆さんへ

北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワークへの登録をお願いします！

- 下記の新渡戸カレッジのウェブサイトまたはQRコードから登録をお願いいたします。
- 得られた情報は、個人情報保護法に基づいて、当ネットワークが厳格に管理し、本人の同意なく外部に提供されることはありません。



<https://ws.formzu.net/fgen/S23755582/>

ウェブサイト・フェイスブックのアドレス

- ウェブサイト 「新渡戸カレッジ」

<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/>

- フェイスブック

「Hokkaido University Nitobe College Alumni Network」



<https://www.facebook.com/groups/hokudai.nitobe.alumni.network/>

北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク (HU-NCAN)

北海道大学新渡戸カレッジ推進事務室 〒060-0817 北海道札幌市北区北17条西8丁目 TEL: 011-706-5414 E-mail: ncan@academic.hokudai.ac.jp

2022年12月1日発行